



2年ぶりのふるさと県ふれあい広場文化祭を開催しました。

今年度に入り、一時的に感染度合いが落ち着きを見せたことから、感染対策を十分に検討した結果、今年度は時間を短縮し、来場者を把握する形で行うこととし、文化祭の開催に向けた準備を続けてきました。当初は、それ程人が来ないのではないかと思っておりましたが、来場された方は1500人にものぼり、時間あたりでは例年と同様の水準で来場があったことが後にわかりました。改めて、県の皆さまの元氣と意欲を十分に感じさせていただきました。この場をお借りして、ご来場いただいた皆さまに心より御礼申し上げます。

コラムかなえ

11月6日・7日に、2年ぶりとなる「ふるさと県ふれあい広場文化祭」を開催いたしました。昨年は、コロナウィルスの影響を考慮して、残念ながら中止

CONTENTS

- 地域振興
市長とのまちづくり懇談会開催
- 環境衛生
アルミ缶回収方法の見直し
- 消防団
秋季非常招集訓練実施
- 生活安全
特殊詐欺被害の防止について
- 健康福祉
文化祭とフードドライブ
- 子どもを育む
コミュニティスクールについて

地域振興

10月29日 市長と語るまち
づくり懇談会開催される
総務文教部長 宮澤隆光



鼎地区市長と語るまちづくり懇談会は10月29日、鼎公民館において49名の参加者により開催されました。
最初に佐藤市長から「日本一住みたいまち」実現に向けて、また、鼎地区の現状や今後必要と感じていること等を



お話しいただき、市長からは四季がはっきりしており、快適な生活ができる水準の高い地域であること、また、将来の農工商のバランスや小中学生が他地区と交流する機会の必要性等が話されました。

地域課題では、二つのテーマが課題提起され、第一の「鼎地区複合施設建設の早期決定について」は、財政計画への組み入れ、建設時期の明確化、八十二銀行の土地の取得等の要望に対し、市からは長期的財政見直しへの組み入れへの検討、八十二銀行へは用地取得の要望を伝え、理解を示してくれている。現時点で建設時期は示せないが、今後具体的な議論を進めていくとの話がありました。

工事実施とリニア工事後の妙琴公園将来構想について」では、拡張工事の早期の実施、公園管理の検討要望に対し、市からは住民の早期実施の要望は受け止めるとし、リニア工事との関連から今後検討したいとの話があり、公園管理については、風致公園であり自然に近い形で公園としたい、指定管理を含めた管理の仕組みづくりを検討する旨の話がありました。

その他、旧鼎図書館の跡地の取得要望に対し、市からは市が購入することは難しいが、旧あかり保育園跡地をまちづくり委員会へ貸与することも良いのではないかと、この提案がありました。その他、ワークライフバランスの推進、クオータ制の必要性、SDGsの普及、屋台獅子を地域の宝としてネーミング要望等の発言があり、有意義な懇談会となりました。

財産区山作業実施 産業経済部長 本島文男

好天に恵まれ10月24日に、松川入り財産区の山作業を無事に終えることができました。ご協力いただきました各種団

体の皆さまに心より感謝申し上げます。

いつの間にか、少しの急斜面を上るだけでも息が切れるような年齢・体型になってしまいました。大きく育った木を見上げるたびに植林から始まり下草刈りや枝打ちなどにご苦労いただいた多くの先輩諸兄に敬意と感謝の思いを巡らさざるを得ません。何十年あるいは百年単位のサイクルの中の一つたった2年間だけを担当させていただきましたが、孫子の代への橋渡しの手伝いできていれば幸いに思います。

しかし、残念なことはコロナウィルスのまん延により、山作業に参加していただいた皆さん全員での反省会が開催



鼎自治振興センター 10月1日付職員の変動

できなかつたことです。中には「反省会がなくてかえって作業に出やすかった」というご意見もございましたが、コロナ禍に見合った山作業の仕方や反省会のもち方を工夫して、これからの時代を支える皆さんに令和以降を託して、財産区山作業の報告とお礼いたします。

【転出】

加藤 里子 (環境課)

【転入】

原 涼歌 (学校教育課)

県地区ホームページを開設しました

県地区HP作成委員会

昨年10月から、県地区にホームページを作ろう!と始まりましたこの活動もホームページ公開に向けた最終調整を経て、12月1日から一般公開を行うことができました。

県に住んでいる人も、これから住んでみたい人も、誰もが「素敵な地域だな」と感じてくれるようなサイトを目指し、取組みを進めてまいりました。

また、このホームページは、長く使っていけるよう、地区の情報や緊急時の情報を集約して、お届けすることも目指し、各地区で更新担当の方を決め、緊急情報が自動発信されるようにしました。このホームページで、県に



地区それぞれの取組みも発信していきます

住む人、10地区の魅力、地区の各種情報を発信し、徐々に様々な情報が充実したホームページを目指していきますので、ぜひ一度 <https://hitokana.com> からご覧ください。今後、末永く見ていただけると幸いです。

2021.12.1 and OPEN!

県ホームページ開設

<https://hitokana.com>

人は県を、人を県を。

人と人との繋がり、温もりを感じられるまち「県」。そんな県の魅力を発信するホームページを開設しました。

各地区の最新情報やお役立ち情報のお届けはもちろん、県の魅力でもある「人」にフォーカスを置き、県の人、県のくらしにも迫ります。ホームページを通じてぜひ新たな出会い、発見を!

県地区まちづくり委員会
お問い合わせ kanae-machikuji@hitokana.com

今後は、皆さまにご活用いただけるようにホームページを整えていきます。 ※ホームページには、上記QRコードからも簡単にアクセスできます。

県地域協議会の活動について

会長 澤柳忠夫

県地域協議会は、まちづくり委員会、各区自治会、各種団体、公募推薦などにより、今年4月より21名の委員が選任され、2年間の任期で、公共施設など県地区の課題や市からの諮問事項について協議を行っています。また、まちづくり委員会と連携し、住み良い地域づくりに取り組んでいます。今年度現在まで3回の会議が行われました。

- 第1回（5月7日）
・飯田都市計画道路の変更について
・飯田市パワーアップ地域交付金実績報告及び新年度交付申請について
- 第2回（9月9日）
・一色パチンコ明星跡地における自動車販売修理業の出店について
- ・旧県図書館建物及び敷地について
- 第3回（11月11日）
・公立保育園のこども園化について
- ・矢高テニスコートの休場日の短縮について
- ・旧県図書館敷地及び旧県幼稚園の敷地への対応について

「新型コロナウイルス感染症をのりこえるための説明書」お読みいただけましたか？

日本国内で初めて新型コロナウイルス感染症が確認されたのは、2020年1月でした。「敵は進化した。では我々は？」と著者の諏訪中央病院の玉井道裕医師が書かれています。病気を理解し我々は何をするべきか。これまでの感染予防策を取りながら、決してこの状況に慣れず、感染しない・させない心構えが大切です。家族や友人などと共有していただき、コロナ禍での生活の参考にしてください。



また、飯田市では新型コロナウイルス感染症水際対策として抗原定性検査キットを活用した社会実験も行っています。地域外との往来がある場合に積極的な検査を行い、感染を防ぐことが目的です。これから年末を迎え、人流が増えるので是非ご活用ください。

申し込みサイト→



赤い羽根共同募金で無線機4台購入

県地区自主防災会では、本年度「赤い羽根共同募金配分事業」を活用して、本部に無線機4台を新たに整備しました。これにより、本部の無線機は合計8台となり、本部と離れた場所との情報伝達をより迅速に行えるようになりました。私たちひとり一人が「自分たちの地域は、自分たちで守



る」という意識を強く持ち、安全で安心して暮らせる地域環境づくりを目指してまいります。



非常招集訓練

9月17日(金)午後7時30分
からみつば保育園発災の想定
で秋季非常招集訓練を行いました。
非常招集訓練は、実際の火災を想定し、各班のチームワークや消火活動に必要な水源の確保が的確かつスムーズに実際の火災現場でも行えるようにするための訓練になります。

秋の非常招集訓練は夜間に行うということで、明かりをどのようにして確保するかが訓練の重要なポイントの一つになります。また、今回の訓練では水源の確保が難しい立地であったため、どのように水源の確保をするのか?という問題が起きました。しかしそのような状況でも班員で知恵を出し合い水源の確保や各班で連携して放水をすること



ができ、良い訓練になったのではないかと思われます。夜間の火災は、昼間の火災に比べて危険ですので、このような訓練を通じて安全かつ迅速な消火活動ができるようにしていきたいと思っています。今回の訓練に際しまして、多大なご理解とご協力をいただきました名古屋市長様・鼎まちづくり委員会様・地元名古屋地区の皆様・生活安全委員会様・日赤奉仕団様・伊賀良消防署様に対しまして、改めてお礼申し上げます。

分団監査

11月14日(日)午後1時から
配備品などの監査を行いました。実際に火災が発生した際に配備品が使えない・配備品が見つからないということを防ぐために、配備品の数が揃っているか、壊れていないかという確認や、会計簿や機関日誌などが適切に記載されているかについて監査を行います。作年度は密集・密接を避けるため、分団の本部員のみでの見回りでしたが、今年度の監査はコロナが落ち着いてきたため、飯田市の危機管理室・飯田市消防団本部と各班の詰所を見回る形式となりました。



各班見回りましたが、詰所は整理整頓されており、配備品の数量と状態の確認ができており、火災が発生してもすぐに出動できる状態になっていることを確認することができました。



かなえふれあい文化祭

11月6日(土)に鼎ふれあい文化祭で飯田市消防団第15分団自動車班の積載車の展示を行いました。

小さな子どもたちが普段乗ることのできない積載車に興味津々といった様子で関車に乗り込み運転する素振りをしたりして楽しんでいました。コロナ禍ということもあり、訓練の縮小や中止が相次ぎましたが小さな子ども達の安全と笑顔を守るように、火災が発生しても迅速な対応がで

消防団員募集

有事の際に活躍できる団員を募集しております。資格をとることもできます。(小型車両系建設機械など) 気になる方はお近くの消防団員、またはお近くの消防詰所までお気軽に声をかけてください。

電話 090-9667-6397
メール otokam-otomako7891@yahoo.co.jp



きるよう、訓練などに励んでいきます。





特殊詐欺被害の 防止について

名古屋交番所長
小池章吾

名古屋交番から「特殊詐欺被害防止」についてのお願いです。

長野県内では、キャッシュカードを狙った特殊詐欺や、オレオレ詐欺、還付金詐欺の増加に加え、架空請求詐欺の被害が依然として発生しています。

飯田市内でも最近、キャッシュカードと暗証番号をだまし取られて、現金が引き下ろされる詐欺被害が連続して発生しました。

手口として、まず電話で金融機関の職員や警察官を装って「カードが不正に利用されている」などと嘘を言い、自宅を訪問。キャッシュカードと暗証番号を書いたメモを用

意させ「証拠品なので厳重に保管して」などと言い、持参した封筒に入れて封をして、「封印するために印鑑が必要」と言いつて印鑑を取りに行かせ、そのスキに偽物のカードが入った封筒とすり替えて、目の前で偽のカードが入った封筒に印を押して返すというものでした。

警察官や金融機関の職員が、キャッシュカードの保護や保管を依頼しに行くことはありません。

また、電話に出ると犯人の話術にだまされてしまうので、在宅中も留守番電話に設定する、迷惑電話防止機能、非通知着信拒否設定の活用をして犯人の電話をブロックしてください。

交番では住民の皆様方が被害者にならないために、巡回連絡による防犯指導や啓発活動等に取り組んでいますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



9月21日から30日
秋の全国交通安全運動
が実施されました



人波ルート作戦

秋の全国交通安全運動初日の9月21日午前7時から、東郷交差点で下山、東郷、西郷、下茶屋、中平の交通指導員、女性部員40名が「交通安全」ののぼり旗や黄色の手旗を持ち、通行中のドライバーに安全運転を呼びかけました。

第2ブロック合同 人波ルート作戦

9月21日午後4時から第2ブロック（上郷・松尾・座光寺・鼎）合同で人波ルート作戦を行いました。交通量の多い上郷別府交差点に立ち活動を行いました。



交通事故に伴う 臨時人波ルート作戦

交通安全運動期間中の28日に、上郷別府交差点で車同士が衝突する死亡事故が発生しました。それを受け、10月12日午後4時より、鼎・上郷の交通指導員と飯田市交通指導員など各関係団体のおよそ40名で臨時の人波ルート作戦を実施しました。

交通安全教室

明星保育園・鼎みつば保育園・鼎あかり保育園にて交通安全教室が行われました。正しい歩道の歩き方や横断歩道の渡り方等、しっかり身に付けてもらえるよう、歩行訓練を指導しました。

鼎あかり保育園



明星保育園



鼎みつば保育園





切石地区におけるアルミ缶回収方法の見直し

切石支部長 遠山 広基

飯田市におけるアルミ缶回収は、鉄と同様に金属資源として取り扱っています。が、鼎地区では独自の取り組みとして、アルミ缶のみを別途回収してお金に換え、地区の環境衛生活動等に活用しています。切石地区においては、3か所に集積所を設けて対応してきましたが、近年回収のルールを知らない、守らない方が多々見受けられるようになりました。

これらの集積所は常時無人のため、洗っていない缶や缶詰のスチール缶、油のびんなどが混入する等により、頻繁に害虫が発生します。快適な環境を維持することが困難

です。

そこで、今一度原点に立ち返り、正しいリサイクルのあり方について区民の皆さんと共に考え取り組んでいくために、アルミ缶の無人集積所を廃止し、「リサイクルステーション」においてのみ対面型で回収する方法に切り替えました。

環境衛生部員が回収作業をお手伝いする中で、適切な出し方について区民の皆さんと共有して参ります。



切石体育館無人集積所

アルミ缶集積所に混入した異物の一例



支部長を経験して 知ったこと

上茶屋支部長 本田 智

今までは、ごみゼロ運動に参加する程度で、あまり環境衛生の活動に関心がありませんでした。しかし、支部長という立場で活動を行うことで、普段使用しているごみの集積所の管理や、リサイクルステーションなど、見えない所で環境衛生委員の活動を知ることができました。

ごみの集積所には、分別がきちんとされていない物や、ごみ捨て場と勘違いされて、そのままの状態で置かれている物がありました。対策としてごみ・リサイクルカレンダーや、集積所使用のルールなどを掲示して、収集されな

ったごみには警告シールを貼り、周知しました。最近では、収集されずに残っているごみもだいぶ少なくなったと思います。

リサイクルステーションには、毎回たくさんビンやペットボトルが集まります。埋立ごみで出してしまうは楽な物でも、ちよつとした事で再生資源にすることができ、無駄なごみを減らせるということを実感できました。

他にも、アルミ缶回収事業では、収益の一部を鼎の小中学校に寄付したり、各支部の配当金は集積所の維持管理などに使用したりするなど、実際に携わることでした。事をすることができました。残りの期間も支部長としてしっかり活動し、次に繋げていきたいと思っています。

アルミ缶回収のお願い

鼎地区ではリサイクルステーションで収集したアルミ缶の収益金の一部を鼎小・中学校へ寄付をし、残りの金額を各地区収集量に応じて分配し活動に役立てております。

ぜひご協力をよろしくお願いします。



各地区から集まるアルミ缶

鼎地区 飯田市合併30周年 記念事業

リサイクルバック

販売しております!! 1枚600円

※販売場所: 鼎自治振興センター (1a.22-7100) どうぞお気軽にお立ち寄りください。



健康福祉

文化祭を終えて

総務運営部会長
(西郷) 林 保紀



今年は感染症対策を講じながら実施しました

新型コロナウイルス感染症拡大が懸念される中、昨年中止された「ふるさと鼎ふれあい広場・文化祭」が今年は好天にも恵まれ、2年ぶりに無事に開催することができました。開催にあたり、県地区内の多くの事業所の皆様に、本



コロナを吹き飛ばす元気な太鼓でした

事業の趣旨をご理解・ご協力をいただきましたこと、厚くお礼申し上げます。健康福祉委員会は、本事業の主旨のひとつ、「ともに助け合い協力し合い見守り合っていく福祉のまちづくり」をふまえ、「手をつなぎ語りあってふれあいの輪を広げよう」のキャッチフレーズのもと、模擬店部会・フードドライブ部会を担当させていただきました。模擬店出店については、感染症対策の為、飯田保健所からの助言も考慮し、飲食を伴う模擬店は残念ですが、禁止とさせていただきます。その上で参加いただきました団



今年の字は「感謝」

体は、鼎壮年団・鼎消防団・民生児童委員協議会・夢かなえ隊・健康福祉委員会の5団体でした。健康福祉委員会が例年実施してきた「愛のバザー」活動は取りやめ、今年度は余っている食糧をお預かりし、生活が困窮されている方を支援すべく「フードドライブ」を実施しました。多くの皆様からのご賛同・ご協力をいただき、ありがとうございます。来年は新型コロナウイルスも収まり、制約のない文化祭が行われることをお祈りいたします。今年度は皆さまご協力ご参加ありがとうございました。



いつもと違う文化祭でしたが、大勢の方々に変わりなくおいでいただきました。ありがとうございます。(左:ストラックアウト、真ん中:絵手紙作成、右:プロジェクションマッピング)



多くの方から志をお預かりしました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

お預かりした食糧は、米が105kg、乾麺類が16kg、レトルト・缶詰などが7kgとその他併せて合計130kgの食糧をお預かりいたしました。お預かりした食糧は、翌月曜日に飯田ボランティアセンターにお預けし、その後は困窮されている方に配分される予定です。

この度、ふるさと鼎ふれあい広場文化祭で、フードドライブのお声がけをさせていただきました。文化祭においては初めての試みであるとともに、事前の周知が難しい状況であったにも関わらず、大勢の方から食糧をお預かりいたしました。この場をお借りして、改めてお礼申し上げます。今後ともご理解をいただくと幸いです。

健康福祉委員会

フードドライブのご報告



「コミュニティスクール」について

委員長 林 専市

「コミュニティスクール」は、学校・地域・保護者が共通の目標をもち一体となつて地域の子どもたちを育ていくための仕組みです。県小学校は『郷土に愛着と誇りを持ち、自己実現を図る県の子』、県中学校は『気づき考え実行する生徒』を「目指す子ども像」(目標)に定め、「学校運営協議会」で取り組みを協議し活動に反映させていきます。今年度から県小中学校・中学校に設置された太陽光パネルの売電収益による寄付金22万円の一部を、



学校運営協議会の様子

活動の推進に活用させて頂くことに決定しました。既に地域の方からは安全見守り、クラブ活動、部活動、地域学習(米作り「夢かなえ隊」、獅子舞)、学習支援、読み聞かせ、学校環境整備、授業支援など様々な支援を頂いており、大変ありがたく感謝申し上げます。一方、子ども達も地域に出て、小中合同あいさつ運動、各支部公民館清掃を行っております。さらに県中学では、地域行事などの運営活動のうち、中学生が希望するものにボランティア参加できるように仕組みを、来年4月から実施できるよう計画中です。

中平 獅子フェスに参加して

10月17日、2年ぶりに開催

今後、家庭、地域で、子どもに話を傾け共感し、共に学び、共に支え合う気持ちを育てていきます。ご理解ご協力をお願い致します。なお、子どもを育む委員会では安心の家の地図を地区ごとに作成し9月末から各公民館に掲示しましたので、区民の皆様にもご覧いただけますようお願いいたします。



された獅子舞フェスティバルに中平も参加しました。

今回は子供獅子の参加は見送られましたが、中平獅子舞の一部を担う「おかめ踊り」には急な開催にもかかわらず9名の女の子達が参加してくれ、一週間という短い練習期間ではありましたが一生懸命に練習していた姿は印象に残りました。当日は久しぶりの大きな場所での演舞で少し緊張気味ではあったものの、堂々とかわいらしく、また華やかに演舞を披露することができました。

子ども達の感想として、久しぶりの披露で緊張はあったけど大きな失敗もなく無事踊れたこと、楽しくできた等の感想がありました。また、練習時より当日にかけテレビ局

の取材を受けテレビ放映されたことも特別な思い出になったようでした。コロナ禍の影響により獅子舞等の伝統文化の継承が難しい中、今回のフェスティバルができたことは大変良かったと思います。

東 子どもの居場所

役員2年目でやつと少し流れが分かってきました。しかし普段通りの活動は昨年同様に行っているのが現状です。育む委員会として地元の子ども達に何ができるかを考えています。登校の見守りくらいで他の前向きな取組みはほとんどできていません。コロナがなければ……もつと色々なことをして皆で楽しく過ごせたのに残念でなりません。

今こそ多くの年代でワクチン接種が進んでいます。子ども達はコロナの為にあれ

もダメ・これもダメと我々大人とは違った対応を余儀なくされています。行事への子ども達の参加についても難しい選択を迫られました。接種を2回した大人達は安心して開催へ舵をきる、でも子ども達はどうでしょう。保護者の皆さんも今年子ども達の居場所作りについて考えたことはないのでないでしょうか。

高齢者の感染が少なくなりましたが今度は若者や子どもへの広がりが増えました。これから寒い季節を控えコロナに加えてインフルエンザの対策も必要となります。これからは子ども達主体の独自の行事について保護者の皆さんと検討をして、冬休みに何か新しい居場所作りの取組みができればいいかなあと考えています。少しでも子ども達の力になればと思っております。

